

《沖縄県》

つぼ や や き
【壺屋焼】



そうがんいろさしめんとりだちびん
象嵌色差面取抱瓶

作者不詳

19世紀

高 10cm

半月部分の径 15.5cm

口径 2.7cm

【陶磁器の魅力はこんなところ！】

抱瓶は、泡盛を入れて持ち運ぶために使用されたといわれる琉球独自の酒器です。三日月形は、腰にフィットする合理的な形でありつつ、美しさも兼ね備えています。本作は19世紀頃に壺屋で製作された沖縄県指定有形文化財の逸品です。

壺屋は1682年に3つの窯を統合して現在的那覇市壺屋に生まれた壺場です。琉球王国時代から現代まで、中心的なやきものの産地として栄えています。鮮やかな「赤絵」や、生き生きとした魚文を描く「線彫」などの技法が知られており、様々な技法で豊かなやきものが生み出されました。本作の表面は餡釉と緑釉が点打ちされる面と、象嵌で幾何学模様が表された面が交互に配られています。精緻な技術と壺屋窯の特徴である暖かみのある風合いが魅力の美しいやきものです。